



木版画

もくはんが

造形ファイル <http://zokeifile.musabi.ac.jp/>



板目木版用版木



木口木版用版木

概要

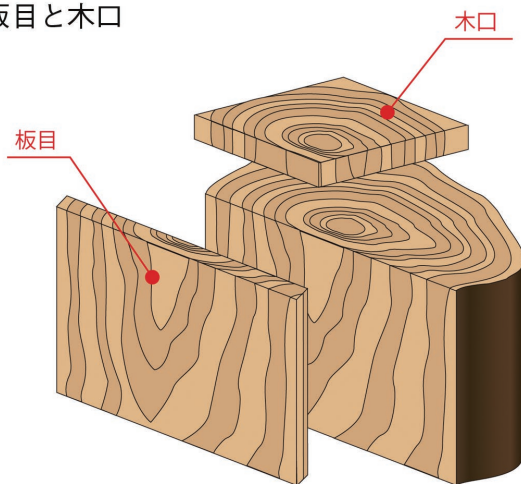
木版画は、版画の凸版における代表的な版種で、版材に木材を用い、彫刻刀などを使用して版面に作り出した凸部にインク（絵具）をのせて、バレンなどで圧力をかけることで、インクを版から紙に転写する版画のことをいいます。

木版画は数ある版画の中で最も古く、長い歴史を持っています。製作年のわかっている最古の版画は、868年に中国の敦煌で制作された経文の中に出てくる仏像の木版画です。この作品は非常に精密に作られており、この精密な技術から、中国ではすでに7世紀より木版画が始まっていたとされています。日本には、8世紀頃に伝えられたとされ、その後、独自の発展をとげることとなり、江戸時代には浮世絵としてぼかしや見当などのさまざまな技術が確立されました。一方、西洋では14世紀後半より宗教画として、その後は活版印刷本の挿絵として発展することになりました。

木版画は、板目木版と木口木版の2種類に分けることができます。板目木版は、立木の状態で縦方向に切り出した木材を版として使用し、木口木版は横方向に輪切りに切り出した木材を使用します。それぞれ版として使用する木材（版木）の特徴から使用する彫刻刀、インク、摺り道具などは大きく異なります。一般的に木版画といわれる場合には、板目木版を指すことがほとんどです。

板目木版では、水性の絵具を用いて摺ることが多く、木目を生かした柔らかな表現や多版を使用しての多色木版を行うことが可能です。浮世絵などはこの板目木版で作られています。使用する版木はシナベニヤなどの合板の他に、桜、朴などの無垢板が用いられます。一方木口木版は、18世紀にイギリスで始められ、油性インクを用いて印刷します。版面が硬いことで細かく彫ることができるため、繊細な表現が可能です。版木はツゲ、桜、梨、楓などが用いられます。この他に版面に木工用ニスを塗布して行う木版凹版や版面を化学処理した版木を使用し、平版と凸版を同時に行う木版リトグラフと呼ばれる技法も開発されています。

板目と木口



板目木版 制作工程（内見当の場合）

彫りの準備

下絵をトレーシングペーパーに転写する

版にカギ見当・引き付け見当を彫る

トレーシングペーパーから版に転写する

彫り

摺りの準備

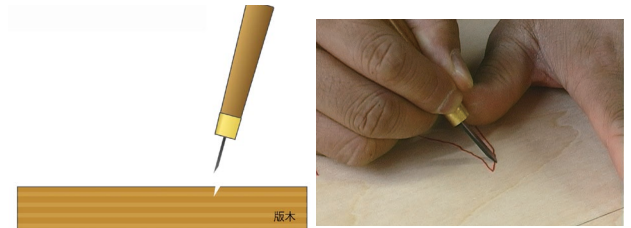
紙を湿す

摺り

完成

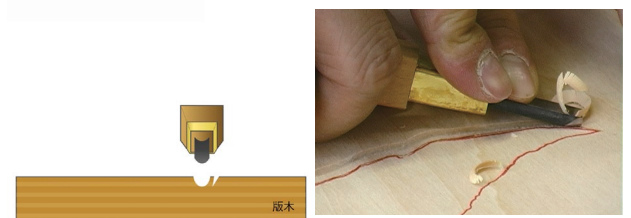
板目木版・彫り

工程 1. 切り出し刀で切り込みを入れる



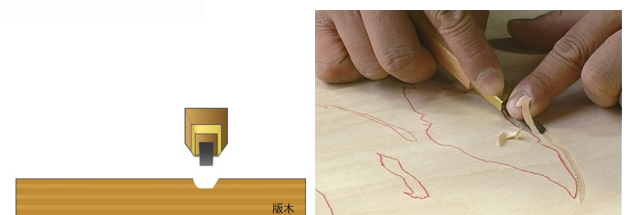
版木に描き込んだ下絵を基に、版の凸部のアウトラインに切り出し刀（版木刀）で切り込みを入れていきます。

工程 2. 切り込みを入れた周りを駒透で彫る



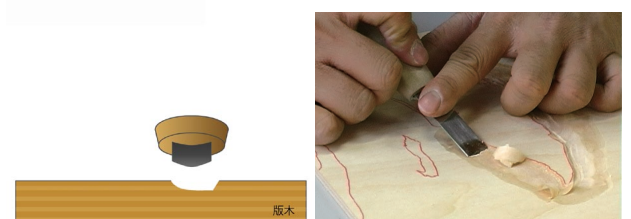
切り出し刀で切り込みを入れた少し外側を駒透でさらっていきます。

工程 3. 駒透で彫った場所と切り込みの間を間透で彫る



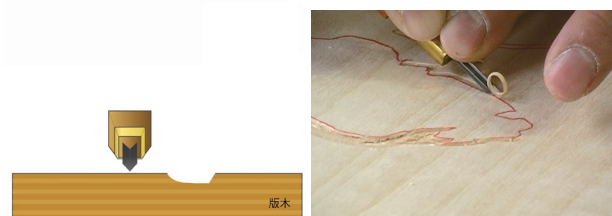
駒透で彫った部分と切り出し刀で切り込みを入れた部分の間の余計な部分を間透で取り除いていきます。

工程 4. 周りをノミでさろう



版となる凸部を作り出すことができれば、一番外側の部分をノミでなだらかなるようにさらっていきます。

補足 1. 駒透・三角刀で直接彫る



下絵の通りに直接駒透や三角刀を用いて彫ることも可能です。駒透きは丸みを帯びた彫り、三角刀はシャープな彫りができます。

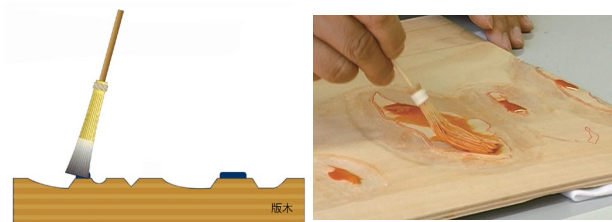
板目木版・摺り

工程 1. 版に水分を与える



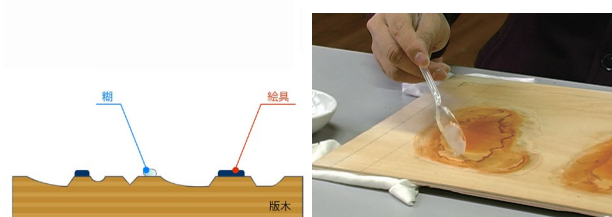
版に水刷毛や霧吹きで水分を与え、湿ったタオルなどに包んで15～20分ほど置きます。

工程 2. 版に絵具を置く



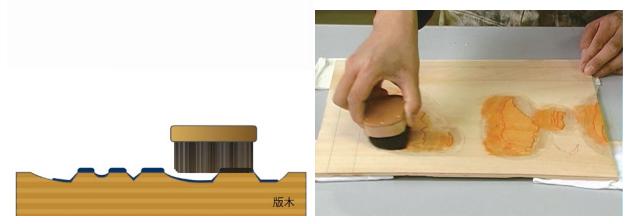
版をやわらで固定し、はこびで絵具を置いていきます。版が一枚目の際は、刷毛で絵具を伸ばし3分程置いて版に馴染ませます。

工程 3. 版に水で溶いた糊を置く



糊はあらかじめ水で溶いておきます。でんぷん糊1：水1程度の割合で溶いておいたものを版の凸部に置きます。

工程 4. 刷毛（版画用ブラシ）で絵具をのばす



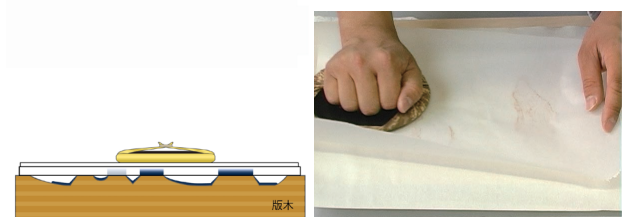
版の凸部に置いた絵具と糊を刷毛（版画用ブラシ）でのばします。この時、絵具と糊をよく混ぜながらのばすようにしましょう。

工程 5. 見当に合わせて紙を置く



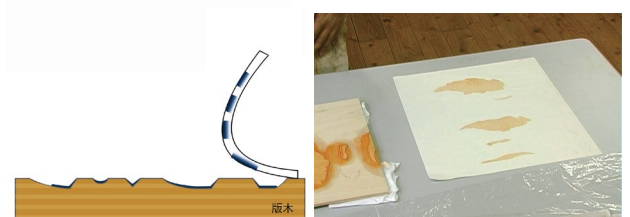
紙の角をカギ見当に引っ掛け、底辺を引き付け見当に合わせて置きます。上にあて紙をのせます。

工程 6. バレンで摺る



初めはバレンで押さえながら大きく動かし、次に木目と竹皮の繊維方向に合わせて細かく圧力を加えます。

工程 7. 完成



しっかり圧を加えたら、和紙をゆっくりめくり取ります。必要な全ての版を摺り終えたら完成です。

木口木版 制作工程

彫りの準備

版の表面を研磨する

版の表面に墨汁を塗布する

下絵をトレーシングペーパーに転写する

トレーシングペーパーから版に転写する

彫り

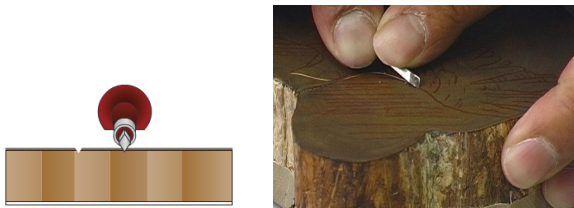
試摺り

本彫り

完成

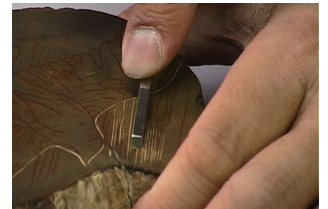
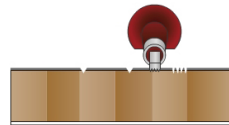
木口木版・彫り

工程 1. ビュランで彫る



カーボン紙で転写した線をもとにビュランで版面を彫っていきます。曲線を彫る場合には、版を回転して彫り進めます。

工程 2. 連発ビュランで彫る



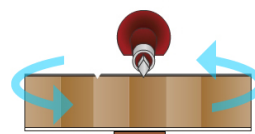
連発ビュランを用いると、一度に複数の平行線を彫ることができます。

工程 3. 彫りの完成



ある程度彫り進めることができれば、版面の状態を確認するために試摺りを行うとよいでしょう。

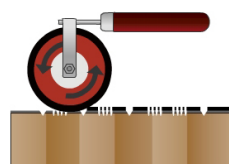
補足 1. 裏面にコインを貼る



曲線を彫る際に版を回転しやすくするため、裏面にコインを貼ると良いでしょう。クッサンと呼ばれる専用の道具もあります。

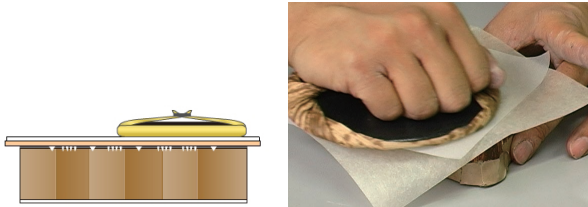
木口木版・本摺り

工程 1. ハンドローラーで版にインクをのせる



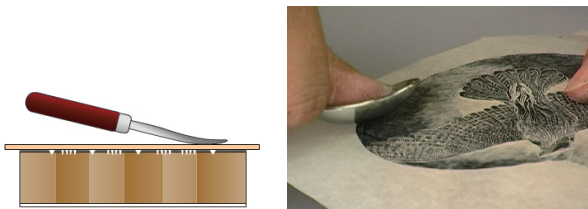
試摺り同様に版にインクをのせていきます。均一にインクがのるように繰り返して行います。

工程 2. バレンで摺る



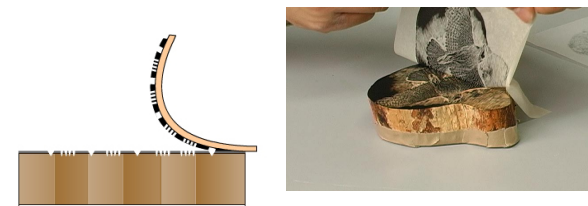
摺る紙とトレーシングペーパーなどのあて紙をのせてバレンで摺ります。

工程 3. スプーンやバニッシャーで摺る



バレンで細かい部分が摺れない場合にはスプーンなどの曲面を使って擦るように摺ります。雁皮紙に摺る場合には、紙の裏側までインクが浸透するため、これを目安にしながら行うと良いでしょう。

工程 4. 完成



細かい部分まで摺ることができたら、紙をゆっくりをめくります。雁皮紙に摺った場合には、インクを乾燥させた後にしっかりとした洋紙に裏打ちを行います。